



## やらない理由を探すのは、自分の道を塞ぐということ

入学式の霜村校長先生の式辞の中で、「失敗を恐れず挑戦してほしい」という言葉がありました。入学して数日が経ち、教科の授業が始まり、学級役員選出がありました。新たに始まった中学校生活で挑戦して日々を送っているのでしょうか？

さて、NHK大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」が始まりました。観ている人はいるでしょうか？このドラマの主人公は、江戸のメディア王とも呼ばれ、日本のメディア産業・ポップカルチャーの礎を築いた、蔦屋重三郎です。蔦屋重三郎は、出版プロデューサーとして、喜多川歌麿、東洲斎写楽、曲亭馬琴、十返舎一九など、数々の絵師や作家たちの才能を見出し、育て上げた人物です。

蔦屋重三郎は、これから売り出していこうとする新人作家を、あえて重要な会合などの場に同席させるようにしていました。大事な客の席で失言されたり、粗相があつたりしたら、困るのは蔦屋重三郎です。普通に考えれば、そのようなリスクはとらないのが安全でしょう。けれども蔦屋重三郎は、危険を冒してまでも、若きクリエイターたちにさまざまなことを肌で覚えさせ、経験を積ませることを大事にしていました。

何かに踏み出そうか迷った時、やらない理由を探すのはとても簡単です。「なんだか大変そうだから」「自分には向いてなさそうだから」「準備が整っていないから」など挑戦しないための言い訳はいくらでも思いつきそうです。でも、そこを思い切って飛び越えて、まずはやってみることが大事なのではないでしょうか。挑戦するということは、自分の知らない新しい景色が見られるということ。そして、新しい自分と出会うということだと思います。1つのことを知っていくほどに、新たな課題も見えてきます。さらにそれを掘り下げていくという経験の積み重ねが、自分を豊かにしていくと思います。何もチャレンジしないうちは、自分を高めることはできません。誰もが何かしら、得意なことや才能を持っているのに、たった一步踏み出して挑戦せずにその才能が埋もれてしまうのはもったいないと思います。環境を変えたり、挑戦したりするのは勇気のいることだと思いますが、コンフォートゾーン(心理的安定領域)の殻を打ち破らなければ、新たな自分に出会うことも自分の秘めている力を認識することもできません。

自分から多くのことに挑戦し、経験を積み、道を切り拓いていくことが大切だと思います。挑戦したことがすべてうまくいくとは限りません。もしかしら、失敗ばかりになるかもしれません。大事なものは、挑戦し、失敗しても、「なぜうまくいかなかったのか」「どうしたらよかったのか」「次はこうしてみよう」などと振り返り、そこから学び、次に生かしていくことだと思います。そして、そんな経験が自分を大きく成長させるのではないのでしょうか？失敗を恐れずに、どんどん挑戦してほしいと思います。

(参考資料：車浮代著『仕事の壁を突破する』飛鳥新書)

## 部活動オリエンテーションがありました

4月14日(月)に部活動オリエンテーションがありました。各部の部長が、1年生に向けて、部活動紹介をしてくださいました。これから部活動見学を行い、どの部活動に入部するか決めていきます。3年間、しっかりと自分の力を伸ばせる部活動を選んでください。部活動見学は、4月17日(木)・18日(金)・21日(月)にあります。部活動見学の日は、完全下校が17時となります。



剣道部の部活動紹介の様子